

備荒儲蓄法

此草案中ニシテ改大
 本草案中ニ漏ル、
 検査、報告、
 預其他、
 細目ハ時、
 改正ヲ要スル
 所ヘケハ備荒法
 副規則トシテ
 兩務大蔵兩卿
 ヲリ兩達ニ相成
 リ
 茲テ可成ト存
 セラレム





備荒儲蓄法

大正十一年四月
隈侯爵印

第一條

儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル日ハ
料小屋掛料農具種穀ヲ給シ又貢租ヲ納ムルニ勝ヘ
ル者ノ租額ヲ代納スルノ用ニ充ツル者トス

第二條

土地ヲ有スル人民ハ地租百分ノ三ニ當ル金額ヲ二十
ケ年間儲蓄金トシテ公儲スヘシ

第三條

政府ハ毎年徴收スル
シテ儲蓄金ヲ補助ス

第四條

附則
本法律ニ依リテ公儲スル金ハ
地方官ニシテ之ヲ管理スル
ノ責任ヲ負フ



備荒儲蓄法

大正五年四月
隈侯爵邸

第一條

儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具種穀ヲ給シ又貢租ヲ納ムルニ勝ヘサル者ノ租額ヲ代納スルノ用ニ充ツル者トス

第二條

土地ヲ有スル人民ハ地租百分ノ三ニ當ル金額ヲ二十ヶ年間儲蓄金トシテ公儲スヘシ

第三條

政府ハ毎年徴收スル地租百分ノ三ヲ二十ヶ年間支出シテ儲蓄金ヲ補助ス

第四條

此条ハ儲蓄ノ

以上三條ハ儲蓄ノ

大正十一年四月
隈侯爵邸

凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食
種穀ヲ給シ又貢租ヲ納ムルニ勝ヘシ
納スルノ用ニ充ツル者トス

民ハ地租百分ノ三ニ當ル金額ヲ二十
レテ公儲スヘシ

地租百分ノ三ヲ二十ケ年間支出
補助ス

此ノ公儲金ノ用

以上ニ示シテ借入金等ノ支出スル者及ヒ其額合トテ年限トテ定ム

政府ヨリ毎年補助スル金額十分ノ四箇
トシテ大蔵省之ヲ管守シ他ノ六箇ハ各府縣地租ノ多
寡ニ應シテ之ヲ配布ス

第五條

政府ヨリ配布シ人民
テ其管内ニ配置シ管守スルノ方法ハ府縣會議決ノ上
府知事縣令之ヲ施行ス

第六條

食料ヲ給スルハ罹災ノ人民自ラ生存スル能ハサル者
ニ限ル又食料ヲ給スルノ日子ハ三十日ヲ超ユヘカラ
ス但非常ノ凶荒ハ此限ニアラス

第七條

同上ノ窮民ニ小屋掛ル

ヲ給スルハ一戸拾田ヲ超ユヘカラス

第八條

罹災ノ為ノ貢租ヲ納ムル
ル方法ハ府縣會之ヲ議決スヘシ

第九條

第六條ヨリ第八條ニ至ル救
ヲ供用ス府縣儲蓄金ノ不足
協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ之ヲ補助ス

政府ヨリ毎年補助スル金額十分、四箇ハ中央儲蓄金
トシテ大蔵省之ヲ管守シ他、六箇ハ各府縣地租、多
寡ニ應シテ之ヲ配布ス

第五條

政府ヨリ配布シ人民ヨリ公儲セシ金額ヲ各府縣ニ於
テ其管内ニ配置シ管守スルノ方法ハ府縣會議決ノ上
府知事縣令之ヲ施行ス

第六條

食料ヲ給スルハ罹災ノ人民自ラ生存スル能ハサル者
ニ限ル又食料ヲ給スルノ日子ハ三十日ヲ超エハカラ
ス但非常ノ凶荒ハ此限ニアラス

第七條

同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸五口農具種穀

ヲ給スルハ一戸拾口ヲ超エハカラス

第八條

罹災ノ為、貢租ヲ納ムル能ハサル者、租額ヲ代納ス
ル方法ハ府縣會之ヲ議決スヘシ

第九條

第六條ヨリ第八條ニ至ル救助ニハ經テ府縣儲蓄金
ヲ供用ス府縣儲蓄金、不足ナル者ハ内務大蔵兩卿ノ
協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ之ヲ補助ス

此条ハ政府ヨリ

此条ハ府縣ニ於

以上二条ハ救濟ヲ

此条ハ貢租ノ代納

此条ハ府縣儲蓄金
ヲ供用スル事

スル金額十分ノ四箇ハ中央儲蓄金
管守シ他ノ六箇ハ各府縣地租ノ多
布ス

民ヨリ公儲セシ金額ヲ各府縣ニ於
管守スルノ方法ハ府縣會議決ノ上
行ス

災ノ人民自ラ生存スル能ハサル者
スルノ日子ハ三十日ヲ超エハカラ
此限ニアラス

掛料ヲ給スルハ一戸五回農具種穀

回ヲ超エハカラス

納ムル能ハサル者ノ租額ヲ代納ス
ヲ議決スヘシ

ニ至ル救助ニハ總テ府縣儲蓄金
留金ノ不足ナル者ハ内務大藏兩卿ノ
蓄金ヨリ之ヲ補助ス

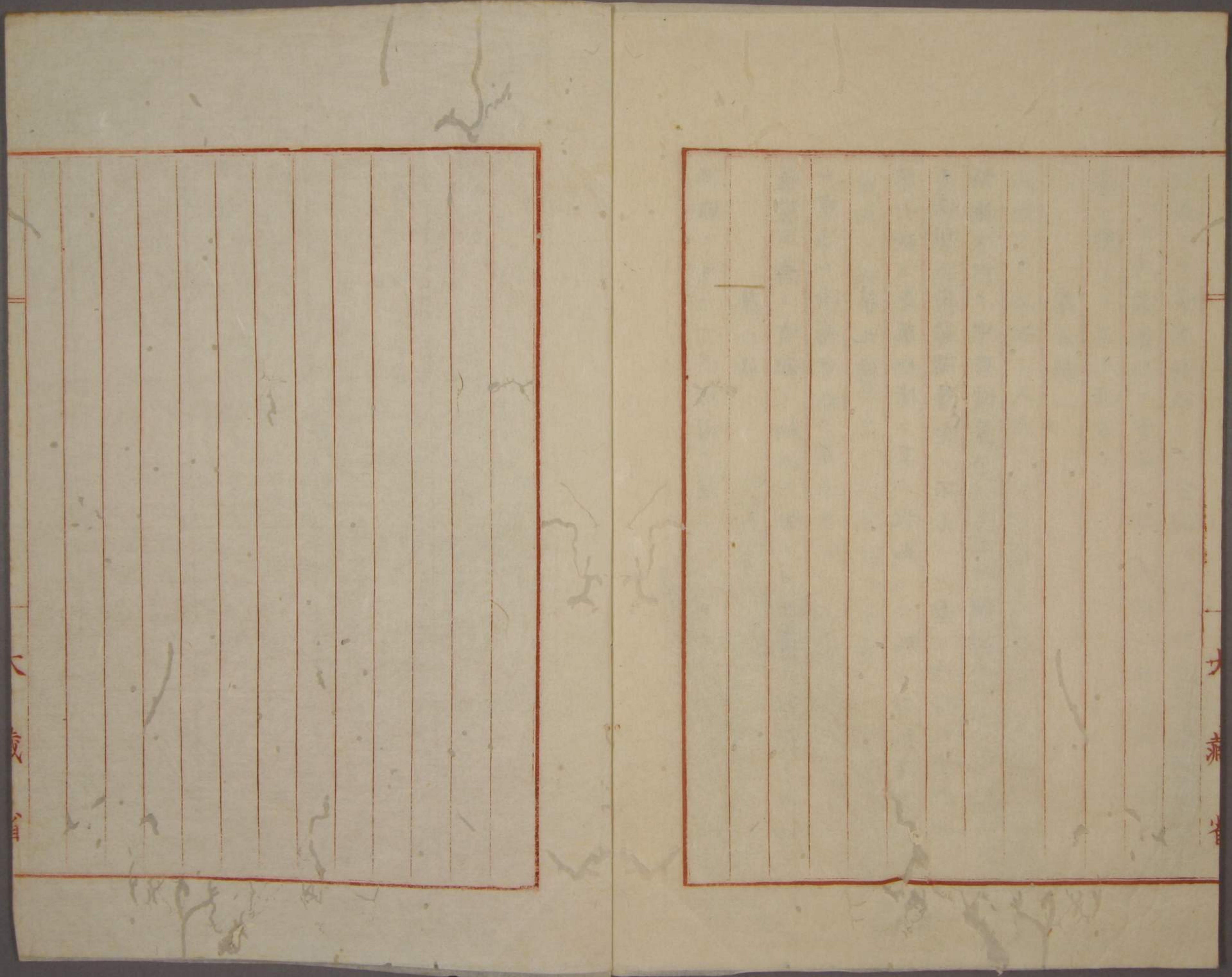
此条ハ政府ヨリ支出スル金額

此条ハ府縣ニ於テ人民ヨリ取去、政府ヨリ積取ル金額ノ配布ト其

以上二条ハ救濟ヲ受クベク者ノ有様ト救助金額ノ極度トヲ定ム

此条ハ租額ノ代納ヲ受クベク人民ノ有様ノ定ム

此条ハ府縣儲蓄金ノ借用方ト中央儲蓄金ノ借用方及
ヲ許可スル極限ノ定ム



六
歲
首

六
歲
首

